

村山団地中央商店街

(村山団地中央商店会)

東京都武蔵村山市

インバウンド

地域課題対応

若手・女性

生産性向上

ポイント 自転車送迎サービスを開始、地域住民の安心安全な生活にも寄与。

基本データ

所在地	東京都武蔵村山市緑が丘
人口	約7万人(武蔵村山市)
電話/FAX	042-561-3937 / 042-561-3937
会員数	42名
店舗数	42店舗(小売業17店、飲食業2店、サービス業4店、金融業1店、医療サービス業9店、その他9店)
商店街の類型	地域型商店街
主な客層	高齢者、主婦 / 70歳代以上、60歳代

商店街概要

昭和41年、約48haの敷地に424棟、全5,260戸という大規模都営団地が完成。村山団地中央商店街も同時に開業し、60区画で48事業所からスタートした。高度経済成長に合わせ、居住者は当初1万3千人から昭和47年には2万3千人に増加し、店頭に並んでいるモノは何でも売れる時代であった。

現在、住民の年齢構成は必然的に上昇し、平成29年1月の高齢化率は約50%、後期高齢者率は約29%にまで至っている。居住者の人数も7,445人に減少。一人住まいは1,260人となっている。それにともない、商店街自体の店舗も一部シャッターがおりているところがあるが、現在は高齢者にやさしい商店街として集客に努力している。

取組の背景

高齢化に立ち向かう商店街

団地の改善改修工事が平成7年から開始され、順次高層住宅へと現在も建替えが進んでおり、2階建て住宅は14階建ての高層住宅などに建て替わっているところである。その結果、高層住宅に移り住むことで外出を控える人が増え、商店街への来客が減少するようになり、外出がおっくうな高齢者は買い物も行かず交流も乏しくなった。

打開策として平成19年に商店街有志7店による宅配事業を開始。好評を得ており、現在も宅配のニーズは途切れることはない。しかし、一方で商店街には宅配に向かない店舗もあり、商店街にもっと賑わいが生まれてほしいという会員の声が多数あった。

そうした中、宅配事業で顧客に話をうかがっていると、「できれば商店街へ行って買い物をしたい」という声も多く聞かれたため、宅配に向かない事業者も含めたメリットと商店街の賑わいを取り戻す方策を検討することとなった。

取組の内容

地域住民を商店街へ送迎する

商店街で賑わいを生み出すための会議を重ねていき、住民を商店街へ送迎してはどうかというアイデアが生まれた。そこで、武蔵村山市の補助や武蔵村山市商工会のアイデア・資金を活用して具体的な事

業計画の検討が開始された。車両なら許認可が必要か、核となる拠点はどこか、運営体制は商店主が行うかなど商店街と商工会が協議していき、三輪自転車による送迎を実施する構想ができていった。

メーカーに送迎自転車の製作を依頼し、拠点については商店街の空き店舗を活用し「おかねづかステーション」を設置。運営は有償ボランティアと商店主により、平成21年10月から運行を開始した。利用者は「おかねづかステーション」へ電話にて送迎を依頼(営業日は月～金で雨天・祝日休み、営業時間は午前10時～午後5時)。ボランティアもしくは商店主が住民宅に迎えにあがり商店街まで送迎し、利用料は無料である。当初ためらう住民は多かったが、徐々に乗車人数は増えていった。7年経過した現在も送迎は高齢者を中心に大変喜ばれている。

利用人数が増えることで送迎自転車の修理も増えてきたことから、新型の送迎自転車の必要性が出てきた。そこで、2台目は地元商業と工業の連携で、武蔵村山市商工会会員の製造業者による「made in musashimurayama」の送迎自転車製造に着手。地元ものづくり企業の技術により、電動アシスト付き送迎自転車が平成26年10月に2台目として完成し運行を開始。現在は1日10～15名の利用があり、ニーズが多いことから3台目を企画中だ。

高齢者の買い物や用事に貢献するとともに、商店街に人が多く来街することで活気が生まれている。宅配に向いていない店舗を利用する人も送迎自転車

を活用しており、商店街全体としてその効果を実感することができている。

また、副次的な要素として各商店のやる気が増していることや地域住民の見守り効果がある。地域包括支援センターと連携を取ることで、道路で歩けなくなった高齢者の送迎や安否確認の連絡を担う役割も果たしている。



商店街から自宅までの三輪自転車による送迎を実施



自転車送迎事業の拠点「おかねづかステーション」

取組の成果

地域住民の安心安全な生活へ

商店街全体の効果として売上が増加。重たい荷物でも買って帰れることや、商店街に来ることでの買い物効果も生まれている。

さらに、地域見守りの効果も非常に大きい。送迎自転車を展開することにより、村山団地居住者の状況がわかり、商店街として情報が共有できている。商店街のネットワークにより、異変を察知して対応

する効果も生まれており、地域住民の安心安全な生活に寄与している。

そのほか、商店街福引イベントの際は多数の来客があり商店街メンバーの意識改革をもたらした。毎月イベント（包丁研ぎやポイント倍増販促など）を行おうと前向きな経営姿勢が生まれており、商店街のセールは年間約100日実施できている。



商店街での福引イベントの様子

異業種の集まりである商店街であるが、その都度来客の反応を把握し、どういうお客さまが来店されるか、どういう対応が喜ばれたかなど住民をおもてなしする方法を懸命に検討している。

実施体制

①資金面のバックアップ：武蔵村山市から買い物難民対策として補助を受けており、有効に活用している。また、商店街も負担金を拠出しており、おかねづかステーションでは地方物産の販売も実施。その収益・活力をもとに、地域金融機関のバックアップやマスメディアの活用もしながら、補助に依存しない自主的運営を目指している。

②体制づくりのバックアップ：送迎自転車の取組は商工会無くしては成し得ない事業であった。商工会経営改善普及事業の一環として、商店街の活性化を目的に具現化の道筋を示すとともに、商店主の意欲喚起も含めて積極的に取り組んできたことが現在までの活性化につながっている。

キーパーソンからのコメント



村山団地中央商店会
会長 比留間 誠一

迎えに行きます！送ります！

「やっぱり商店街へ行って買い物をしたいよね」宅配でうかがっているところのような声がたくさん聞こえてくる。そんなことから、送迎自転車の無料運行を開始。スタートの時点で送迎自転車の保管・電話対応・運転手のローテーション管理などを受け持っていていただくボランティアの管理人を置き、運転手はボランティアと商店主が担っています。ボランティアは大きな存在ですが、商店主も積極的に運転し、顧客とのコミュニケーションを積極的にとっていききたいと思います。

思わぬ効果が生まれています！

送迎自転車事業は顧客を案内することで医院・理美容院・食事処などの店舗にも喜ばれ、利用客に好評です。米屋の「高齢者にやさしいおにぎりや惣菜」の販売開始や魚屋の「無料で魚を焼きます」のサービスなど商店街ならではの動きが出てきています。

商店街のイベントと街を明るくしている送迎自転車事業をうまくリンクさせて、地域住民に喜んでいただき結果を得たいと取り組んでいるところです。